

校長室だより		令和5年11月15日発行
<b>共学共高</b>	第	
	59	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

## 沖縄修学旅行～その3

修学旅行3日前の朝を迎える。高級ホテルでのビュッフェ形式の朝食もこれで最後である。生徒たちは思い思いに料理を選んで、楽しそうに会話をしながら食事をとっている。この日はスーツケースなどの荷物をパッキングしてバスに積み込まなければならない。ゆっくりと味わいながら時間ギリギリまで朝食をとる生徒もいて、内心ひやひやしている自分がある。最後の生徒が朝食会場を出たところで、教員チームは部屋へ戻る。

午前中は、国際通りでの班別行動である。ショッピングや食事など、自分たちで好きなように時間を過ごすことができるので、生徒たちは楽しみにしているようだ。中学校の時に修学旅行へ行った生徒は、コロナ禍のため全体の半数くらいだが、「中学校の時にはあわただしく追い立てられるように各地を回った」という印象をもっている生徒もいる。自分たちで創ることのできる、こういう時間が嬉しいようだ。

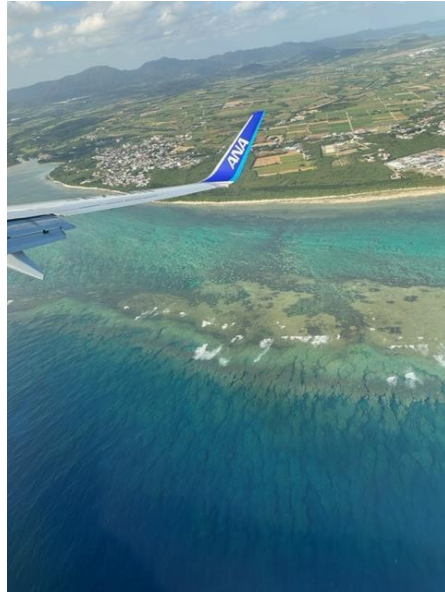
今回の修学旅行では、卒業アルバムの業者さんのカメラマンが同行していないので、教員チームが業者さんのデジタルカメラを預かり、生徒たちの様子を撮影することになっている。私も1台のカメラを任されているので、国際通りで生徒たちに出会うたびに「写真だいいじょうぶですか？」と声をかけ、撮影した。ここでも生徒たちは私服なので、他校の生徒と間違えてはいけないのだが、幸い顔と名前の一致している生徒が班内にいたので、美ら海水族館のようなミスを犯すことはなかった。生徒たちは快く撮影に応じてくれた。途中、ジェラードの店で、他の教員から預かった公式カメラ（卒業アルバム用）を持った生徒から声をかけられ、私の撮影もしてもらった。（悪いけど、きっと卒業アルバムには採用されないと思うよ）どこへ行くかノープランの生徒もいれば、あらかじめ綿密に調べて裏道の目的地へ入っていく生徒もいる。それぞれに楽しんでいるようだ。

私自身、20年ぶりに国際通りを訪れたが、公設市場の様子は薄れそうになった記憶と重なる部分もあった。ややグロテスクな豚の顔を売っていたり、2階で食事をとることができたりするのも変わっていなかった。今朝取れたばかりの海ぶどうと島ラッキョウの塩漬けをおみやげに購入し、帰京してから酒の肴にすることにした。（いずれも大変美味しかったです）



県庁前に停車したバスに集合し、那覇空港へ向かう。石垣島へと移動するのだ。機内から見える海の色もきれいだ。およそ 1 時間で新石垣空港へ着いた。そこからバスでホテルへと移動する。車内では、ガイドさんに「ゆいゆい」の歌に合わせて踊るパフォーマンスを教えてもらい、みんなで音楽に合わせて楽しんだ。

バスがホテル前に着くと、スーツケースなどの荷物を降ろしてホテルの入口まで移動させる。このときに、私は生徒が全員降車したあとで、車内に忘れ物がないかどうか点検してから降りるのだが、私のスーツケースをハンドボール部の生徒がキープしてくれた。なんて優しい生徒なのだろう。実はホテルに入り、3階まで重いスーツケースを持って階段を上がるのは女子生徒にとってなかなか厳しい。このときに、ハンドボール部の生徒たちは重いスーツケースを持って階段を素早く上がっていくのだ。それだけではなく、1階でエレベータ内に生徒たちのスーツケースなどを積み込み、3階で降ろす作業をしている教員の手伝いを率先して担ってくれているのだ。普通の人には、自分のことだけしか考えない。しかし、ハンドボール部の生徒たち（選抜とインターハイで全国制覇している生徒たちである）が周囲を気遣い、自ら他のために動いてくれているのである。そうした姿を見て他の生徒たちも全体のために動くようになる、あるいは動かなくてはと思うようになる。なんて素敵な生徒たちなのだろう。自分が高校生の時にはできなかったことだ。



この日の夕食は、いわゆる卓盛で、一斉にいただきますをする。代表生徒のメッセージを聞き、一斉に手を合わせて「いただきます！」ここでも楽しそうに食事をする生徒たちの姿が見られた。みんなよく食べる。食事時間の終わりが近づくと、あるサプライズがあったが、これは後輩たちのために言わないでおこう。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)